

編集余記

放射能が怖い
と瑞浪、土岐、
可児の住民らが
不安がっていた
土地造成時の埋
め戻し材「フェ
ロシルト」が、

重金属などの有害物に汚染されていたことが分かった。製造業者は県の要請を受けて、全量撤去する方針だ▼フェロシルトは、化粧品などの白色顔料に使う酸化チタンの製造過程で出る産廃の廃硫酸を基に、三重県の補助で四年前に開発されたりサイクル製品。結局、業者がリサイクル推奨認定の取り下げを求めたため三重県はその認定を取り消したが、行政のありようには首をかしげざるを得ない▼そもそも放射能を含む産廃を、リサイクル製品として法規制の外で野放しにしたために問題が生じた。埋め戻し材という認定なのに現実には野積みされたり、掘り返しも持ち出しも自由。何より「放射能は微量だから問題ない」という判断は正しいか▼住民らは「放射能を含む産廃の不法投棄だ」と警戒した。実際、覆土が無い所では自然界のレベルを超える放射線量が検出されている。「飛散して放射能を含んだチリが体内に入れば、体内被ばくが怖い」と、現地を訪れた専門家が警告した▼岐阜県も、三重県と同様に「放射線量の測定結果は年間被ばく限度の一リシーベルト以下で、安全上の問題はない」としてきた。住民らの不安には答えていない。それが急ぎよ、全量撤去に動いたのは、六価クロムなどの有害物汚染が分かったからだ▼つまり、問題は解決していない。酸化チタン産廃の放射能は、この国で依然、野放しのままだからだ。